6月27日号 第2587号 2002年(平成14年) (昭和24年5月10日 第三種郵便物認可)

発行所 財団法人 海上保安協会
〒104-0045 東京都中央区築地 5－3－1
電話 03－3542－3678～9
FAX 03－3541－9085
(毎週木曜日発行)
購読料 月極610円 送料共

海上保安新聞

しなやかな発想で21世紀
日昇印刷株式会社
〒104-0043 東京都中央区湊1－14－14
TEL 03－3553－3161～4
FAX 03－3551－4898

不審船引き揚げ作業始まる

7月末終了メドに

費用約59億円、閣議決定

奄美大島沖で昨年暮れ沈没した不審船の引き揚げ作業が六月二十六日、着手された。引き揚げについて日中両政府が合意したことから、二十一日の関係閣僚会議で引き揚げを決定。その後の閣議で予備費から約五八億八五〇〇万円の支出が決められ、海上保安庁が民間サルベージ業者に作業を委託した。現場が中国の排他的経済水域のため、中国との交渉が長引き、事件発生から半年後に事件の本格解明がスタートする。

"海水プール"に入れ持ち帰る

作業は日本サルヴェージ、深田サルベージが行う。海上保安庁は台風シーズン前の七月末までの終了を目指すが、順調にいっても約一カ月かかり、台風などで遅れる可能性もある。

二十二日に横須賀から無人潜水艇支援母船が出港。起重機台船、有人・無人潜水艇支援母船、指揮船の巡視船「いず」（横浜）など計八隻が投入された。二十五日深夜に現場着。沈没不審船の位置（29度13分、東経125度25分付近、水深95㍍）の確認作業のあと、本格的な引き揚げ作業が始められた。

沈没船周辺には漁網・漁具、手榴弾などが散乱しているとみられることから、まず、周辺海底の障害物を除去。その後、無人潜水艇を投下し、マニピュレーター（ロボットアーム）で沈没船の甲板上の障害物を除去する。

次いで、船底と海底との間に空間をつくり、手足を自由に使える飽和潜水士と、潜水器内が大気圧に保持されている大気圧潜水士が船体にワイヤを取り付け、船体を水面までゆっくり吊り上げる。

引き揚げた船体内の海水はできる限り排水、台船の海水プールに沈める。船内の航海計器、電子機器などが酸化すると記録が消失する恐れがあること、残っていると見られる爆発物の酸化防止のため、なるべく海底と同じ状態を保つ。

『海の日』多彩な催し

7月20日は国民の祝日「海の日」。平成8年、「海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う日」として制定された「海の日」も今年で7回目。全国各地で海に親しむためのレクリエーションや体験乗船、海や水辺をきれいにするクリーンアップ大作戦などさまざまなイベントが下表の通り行われる。海上保安庁による灯台の一般公開や巡視船艇の体験航海などもある。日本と世界を結ぶ「海」を体感しよう。

（海上保安庁関係の行事は4～5面に）

開催日	行事	場所
7/ 1～8/31	実感！マリンウィーク'02	全国各地のマリーナ、フィッシャリーナなどで体験乗船会
7/ 9～26	サバイバルトレーニング講習会	京都府・宮津（7/9）宮崎県・川南（7/12）三重県・四日市（7/16）青森県・八戸（7/25）島根県・浜田（7/26）
7/13～14	柏崎マリンスポーツフェスタ2002	新潟県柏崎市
7/14	B&G 海洋スノーケリング	千葉県・鋸南町
7/15～20	第13回人と海のフォトコンテスト「マリナーズアイ」作品展	東京芸術劇場
7/20	少年少女「海の日」海と船の体験教室	巡視船で港湾施設や東京港内見学
	明治丸（国の重文）の特別公開など	東京商船大
	第7回「海と遊ぼう720」キャンペーン	全国各地でヨット、モーターボートによる「海体験」
7/20前後	全国ビーチウォーク&クリーンアップ大作戦	全国53海岸
7/20～23	海洋ウィークフェスティバル「ワールド シー ワールド・夏」	船の科学館（東京）と周辺海域で体験乗船会
7/20～28	第17回「海の祭典」	金沢市、七尾市など石川県内各地
7/20～31	臨時海の相談室	船の科学館（東京）
	B&G クリーンフェスティバル	全国各地のB&G海洋センター
7/20～10/26	ボート天国	全国16港
7/21	「海の日」ファミリーコンサート	NHKホール（東京）
	葉山ハーバーフェスタ	神奈川県葉山町
7/22～27	公開講座「船と航海」	東京商船大。参加料・6日間で7，000円
7/23～25	第4回全国水産・海洋高校カッターレース全国大会	蒲郡港内特設コース
7/24～26	第4回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー	東京ビッグサイト東ホール
7/26～27	お天気フェア2002 TOKYO	池袋サンシャインシティ（東京）
7/26～28	第43回鳥羽パールレース	鳥羽市～静岡県初島のヨットレース
7/26～8/31	B&G 海洋体験セミナー	マリンピア ザ オキナワ（沖縄県本部町）
7/27～28	マリンリゾートフェスティバル イン 和歌山	和歌山市
7/27～7月下旬	気象台一般公開	新潟地方気象台（7/27）御前崎測候所（7/28）長崎海洋気象台（7/31）甲府地方気象台・網代測候所（7月下旬）
7/27～8月下旬	お天気教室	沖縄気象台（7/27）岐阜地方気象台（7/30）銚子地方気象台（7月下旬）前橋・名古屋・鹿児島地方気象台・大阪管区気象台（8月下旬）
7/28	B&G ヨット体験教室	茨城県・玉造町
7/30～8/4	第7回オーシャンカップ競走	若松競艇場。「海の日」記念レース
8/ 1～31	夏休み海と船の工作教室	船の科学館（東京）。親子で楽しむ船の模型工作・実験教室
	第30回我ら海の子展	東京銀座ギャラリー
8/ 2～8	第17回日本の海洋画展	東京芸術劇場
8/ 3～4	マリンスポーツフェスティバル in いわき	福島県いわき市
	第7回Wakeboard J-ROUND 2002 CUP in お台場	お台場海浜公園（東京）
	第6回横須賀うみかぜカーニバル	うみかぜ公園（横須賀市）
8/11	ラジコンフェスティバル in 多摩川競艇場	多摩川競艇場
8/11～20	第39回中学生海の絵画コンクール展示会	羽田空港・ビッグバード6階ギャラリー
8/14～18	桂宮杯第47回全日本学生水上スキー選手権大会	千葉県小見川町
8/17～19	第46回全日本学生水上スキー選手権大会	千葉県小見川町
8/24～25	リバーサイドパーティ in うしぼり	茨城県潮来市

政策懇談会開く

主要施策へ貴重な提言

海上保安庁は主要施策について意見を聞く政策懇談会を六月十八日、海上保安庁対策本部会議室で開いた。外部の学識経験者や団体代表の助言を聞き、施策に反映するのが狙い。

会合には二委員を除く七委員が出席。縄野克彦長官が「一万二、〇〇〇人が年間予算一、七〇〇億円の中で、一人何役もこなして頑張っている」などとあいさつ。海上保安庁側から❶不審船❷密航・密輸❸プレジャーボートなどの事故❹日本関係外国籍船舶における犯罪❺大陸棚調査について、対策・対応を説明し、委員の意見を求めた。

主な意見は次の通り。

「予算規模小さすぎる」「国民にもっとPRを」

▽海保の予算が一、七〇〇億円という小ささに驚いた。船舶の予算が六六億円というのは少なすぎる。

▽不審船への対応として不審船の類型と公海上、排他的経済水域での対応の類型を整理しておく必要がある。

▽プレジャーボートなどの海難が増えているが、「経験を積む」、「マナーを身につける」ことが必要だ。

▽物流の合理化にはIT利用の高度管理の海上交通システムが必要だが、航路標識事業費が六三億円でどのくらいのことができるのか。トータルとしてのシステムを早く作ってほしい。

▽大陸棚の説明には啓発された。もっと国民に周知すべきだ。

▽不審船をはじめとして海保は国民の目に見える貢献をしているが、少しおとなしすぎる。予算確保を考えても広報は非常に重要。不審船の場合でも（危険なことを了解してもらったうえで）記者を巡視船に乗せてもいいのではないか。

出席者は次の通り。

▽岡本行夫・岡本アソシエイツ代表取締役▽奥脇直也・東大教授▽川勝平太・国際日本文化研究センター教授▽北村喜宣・上智大教授▽作家、鈴木光司氏▽﨑長保英・日本船主協会会長▽曾野綾子・日本財団会長

今年度初の政策懇談会

週間海難情報

6月17日(月)～6月23日(日)

六月二十二日午後十時四十分ごろ、遊漁船・庄栄丸（九・七㌧、乗組員十人）から「小浜湾沖一三㌔で推進器にロープが巻きつき航行不能となった。救助を頼む」と118番で八管本部に要請があった。

敦賀保安部が巡視艇「ゆらかぜ」を出動させた。午後十一時五十分ごろ会合して曳航、翌二十三日午前二時五十分ごろ、大島漁港に入港、救助を完了した。

今週、海上保安庁が救助した船舶、人命は二隻、一三人だった。

種類別	隻数
衝突	15
乗り揚げ	6
転覆	4
火災	8
爆発	0
浸水	0
機関故障	3
推進故障	2
舵故障	1
行方不明	0
その他	5
計	44

潮流

▼「不審船は宝の山だ」と新聞が報じている。奄美大島沖の沈没不審船を引き揚げれば、日本周辺に出没する不審船の正体が初めて入手できるのだから、治安関係者にとっては「宝の山」だろう。不審船の意図や目的、装備内容、乗船者の特徴など重要な手掛かりがつかめるに違いない▼引き揚げは慎重に行われるようだ。引き揚げに伴う環境汚染防止のための措置を施し、引き揚げ後は爆発物の酸化防止や航海計器や電子機器などが酸化して記録が失われれないようにするため、台船の海水プールに沈め、海底と同じような状態を保たせながら運ぶ。その後、綿密な調査が行われるだろう▼十管は殺人未遂事件の証拠物確保が目的だと説明するが、それだけで大型巡視船一隻を建造できるほどの費用が支出されるはずがない。やはり「宝の山」だから、約五九億円もの税金が投入されるのだ。調査した内容をすべてとは言えないが、治安維持に差し支えない範囲で国民が納得できるよう、資料はできるだけ公表すべきだろう。